

## 第5・6学年 国語科学習指導案 (略案)

第5学年 3名 第6学年 1名 計4名 指導者

### 第5学年

- 1 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう  
教材名 固有種が教えてくれること  
自然環境を守るために
- 2 目標 事実と感想、意見などの関係を叙述を基におさえ、文章全体の構成を捉え、要旨を把握し、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。  
原因と結果などの情報と情報の関係を引用したり、図表やグラフなどを用いたりして自分の考えが伝わるように書くことができる。
- 3 単元指導計画 (10時間)

過程	主な学習活動	時間
課題をつかむ・見通す	<p>1 試しの活動を行い、ゴールの活動や単元のめあてを設定し、学習の見通しをもち、学習計画を考える。</p> <p>③図表やグラフを用いる意図を捉え、それを活かして、関心のある環境問題を分かりやすく伝えよう。</p> <p>① 構成を捉えて、要旨をまとめる。          ② 図表やグラフを用いる意図を捉え、その効果を考え、話し合う。          ③ 他の資料を活用し、図表やグラフを用いる意図を捉える。          ④ 関心のある環境問題について調べ、グラフや表を使って、自分の考えをまとめる。</p>	1
調べる	<p>2 構成を捉え、要旨を書く。</p> <p>3 図表やグラフを用いる意図を捉え、効果を考える。(本時)</p>	1 1
深める・生かす	<p>4 筆者の考え方と説明の工夫について、自分の考えを話し合う。</p> <p>5 他の資料を活用し、図表やグラフを用いる意図について考える。</p>	1 1
つかむ	6 関心のある環境問題について調べ、学習の見通しをもつ。	1
調べる	7 用いる統計資料や構成を考え、グラフや表を使って、自分の考えをまとめまる。	3
深める	8 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。	1

### 4 評価規準

文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができたか。

### 第6学年

- 1 単元名 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう  
教材名 『鳥獣戯画』を読む  
発見、日本文化のみりょく
- 2 目標 比喩や反復などの表現の工夫に気付き、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。  
事実と感想、意見を区別したり、筆者の表現の工夫を用いたりして自分の考えが伝わるように書くことができる。

### 3 単元指導計画 (10時間)

過程	主な学習活動	時間
課題をつかむ・見通す	<p>1 試しの活動を行い、ゴールの活動や単元のめあてを設定し、学習の見通しをもち、学習計画を考える。</p> <p>③筆者の表現の工夫を捉え、それを活かして、日本文化の魅力を分かりやすく伝えよう。</p> <p>① 絵と文章をつなげ、筆者の評価を捉える。          ② 筆者の表現の工夫を見つける。          ③ 論の進め方と絵の提示の仕方の工夫を見つける。          ④ 日本文化について調べ、よさを伝える文章を書く。</p>	1
調べる	<p>2 絵と文章をつなげ、筆者の評価を捉える。</p> <p>3 筆者の表現の工夫を見つける。(本時)</p> <p>4 論の進め方と絵の提示の仕方の工夫を見つける。</p>	1 1 0.5
深める・生かす	5 筆者の工夫の中で特に効果的なものについて考える。	0.5
つかむ	6 関心のある日本文化について調べ、学習の見通しをもつ。	1
調べる	7 この単元で学んだ表現の工夫を使って、自分の考えをまとめる。	3
深める	8 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。	1

### 4 評価規準

文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができたか。

## 5 本時（3／10）

### （1）目標

- 文章と資料を結び付けたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができる。
- 資料を用いて説明することの効果や意味を自分の言葉で書くことができる。

### （2）指導に当たって

「つかむ」、「見通す」段階では、本時の学習課題とめあてを明確にするために、単元のゴールの確認を同時導入で行う。「調べる」「高める」段階では、自力解決につなげるために、本時の学習の視点を与えて全体で共有し、自力解決を進める。「振りかえる」段階では、出てきた考えからガイドを中心に自分達でまとめを作り、交流の4つの観点をもとに学習を振り返ることで、自己の変容を実感させたい。

### （3）実際

指導上の留意点	主な学習活動	過程	教師の位置	過程	主な学習活動	指導上の留意点		
<p>・言語活動の内容を同一にし、単元のゴールの確認を2学年同時に行う。</p> <p>・学習のつながりを意識して本時の学習に取り組むことができるよう、前時の学習の筆者の主張や要旨などを掲示しておく。</p> <p>・筆者が資料をたくさん用いている理由を考えることで、めあてを焦点化する。</p> <p>・本時での解決方法の見通しを持たせ、方法を共有するために、資料1の意図と一緒に考え、ノートに記入させる。</p> <p>・方法が分からず、困っている児童のために、ロイロノートにヒントカードを用意しておく。</p> <p>・議論に上がらなかった資料を取り上げ、筆者がその資料を用いた意図を考えさせる。</p> <p>・筆者が資料を用いた目的を問い合わせことで、筆者の意図を考えさせる。</p> <p>・考え方の交流をする際には、相手の考えを受容し、自分と比較したうえで、リアクションしながら、交流させる。</p> <p><b>評</b> 文章と資料を結び付けたり、その効果を考えたりして、論の進め方を捉えることができたか。</p> <p>・まとめを6年生に発表することで、5年生の見つけた図表を使う意図を活かせるようにする。</p> <p>・振り返り…G自信、&amp;付け加え、C変化+W 分かったことの4つの観点で振り返り、意見の交流や学習による自己の変容を実感させ、次時以降の学習へつなげる。</p>	<p><b>1 単元のゴールの確認を行う。</b></p> <p><b>2 これまでの学習を振り返り、学習課題をつかむ。</b></p> <p>資料の必要度ランキングを作ろう。</p> <p>一番分かりやすかった資料はどちらかな。</p> <p>資料がたくさんあるな。どの資料が一番かな。</p> <p><b>3 本時のめあてをつかむ。</b></p> <p>筆者は、文章を分かりやすくするために、どのような資料をいれているのだろうか。</p> <p><b>4 解決方法の見通しを立て、ツールを確認する。</b></p> <p>① 何の説明のための資料なのか考える。 ② 必要な順番に並べる。</p> <p><b>5 自分で考える。</b></p> <p>資料5は、なくても分かりそうだね。</p> <p><b>6 考えを交流する。</b></p> <p>1位は、資料7にしました。固有種を守りたいと言っている筆者の考えに関係しているからです。</p> <p>資料2も分かりやすかったです。固有種がいる理由が分かったからです。</p> <p>資料1は必要ないのかな。</p> <p>どの資料も読む人のためにつけていそうだね。</p> <p><b>7 学習のまとめをする。</b></p> <p>読み手のことを考えて、言葉だけでは伝わりにくいものに資料を付け、説得力をあげている。</p> <p><b>8 学習を振り返り、次時について知る。</b></p> <p>資料があった方が文章が伝わりやすくなることが分かりました。</p>	つかむ・見通す⑤	つかむ・見通す⑤	調べる・高める⑩	<p><b>1 単元のゴールの確認を行う。</b></p> <p><b>2 これまでの学習を振り返り、学習課題をつかむ。</b></p> <p>筆者の表現の工夫をまねしよう。</p> <p>今までの作品との違いは何でしょう。</p> <p>言葉遣いが違うところがあって、おもしろいです。</p> <p>筆者はどんな工夫をしているんだろうね。</p> <p><b>3 本時のめあてをつかむ。</b></p> <p>筆者は、文章を伝わりやすくするために、どのような工夫をしているのだろうか。</p> <p><b>4 解決方法の見通しを立て、ツールを確認する。</b></p> <p>① 伝わりやすいと思った言葉に線を引く。 ② 言葉を仲間分けする。</p> <p><b>5 自分で考える。</b></p> <p>話しかけてくるように書かれているな。</p> <p>今しているみたいに書いてあるよ。</p> <p><b>6 考えを交流する。</b></p> <p>他には、どんな工夫がされているのかな。</p> <p>筆者の工夫に自分なりの名前を付けてみよう。</p> <p>「読む人に話しかける」にしようかな。</p> <p><b>7 学習のまとめをする。</b></p> <p>実況、話しかける、体言止めを使うと、分かりやすく書ける。</p> <p><b>8 学習を振り返り、次時について知る。</b></p> <p>話しかけるように書いてあって分かりやすかったです。</p>	振り返る⑩	振り返る⑩	<p>・言語活動の内容を同一にし、単元のゴールの確認を2学年同時に行う。</p> <p>・学習のつながりを意識して本時の学習に取り組むができるよう、前時の学習を掲示しておく。</p> <p>・今までの説明文との違いに着目して、めあてを立てられるようにする。違いに気付けるように、「時計の時間と心の時間」の教材文を掲示しておく。</p> <p>・筆者の表現の工夫に気付けるように、ロイロノートなどに、書き出しや文末など、注目する観点に関するヒントカードを用意しておく。</p> <p>・1名での交流になるので、教師があらかじめ考えを複数準備し、交流を通して考えの深化が図れるようする。</p> <p>・ノートに考えを分類・整理する際に、色を使って線を引かせて、視覚的に捉えられるようする。</p> <p>・分類・整理する際、活用できるように、短冊を用意しておく。</p> <p>・筆者の表現の工夫を使いこなせるようにするために、自分なりの名前をつけさせる。</p> <p><b>評</b> 自分の考えを効果的に伝えるための筆者の工夫を捉えることができたか。</p> <p>・まとめを5年生に発表することで、6年生の見つけた表現の工夫を活かせるようする。</p> <p>・振り返り…G自信、&amp;付け加え、C変化+W 分かったことの4つの観点で振り返り、意見の交流や学習による自己の変容を実感させ、次時以降の学習へつなげる。</p>